

平成24年1月27日発行

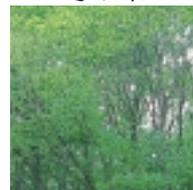
第156号

こうふ町 議会だより

町勢

世帯数/1,131世帯
人口/3,440人
(平成24年1月1日現在)

町の木



ぶな

町の花



あやめ

特集 英語であそぼう

12月定例議会2P~3P

いっぱん質問 町政を問う...4P~5P

地方行政調査.....6P~7P

町内所轄事務調査8P~10P

陳情の審査について12P

私のひと言14P



安全な町へ
決意もあらた!!

(江尾町内パレード)

12月定例会

一般会計 9483万円増額

予算総額 35億5417万円に

補正予算

一般会計

主な内容

●総務費

(雪崩災害和解金)
500万円増額

一世帯一人和解金

●民生費

(特別医療費)
350万円増額

特別医療費助成費

(防災諸費)

43万円増額

災害派遣負担金

(東北支援)

平成23年12月定例会は12月12日に招集され会期は16日までの5日間と定めて開かれた。

今回の定例会には平成23年度の一般会計補正予算と特別会計補正予算、条例の一部改正など、16議案が提出された。

議会では、これらについて慎重に審議した結果、いずれも原案どおり可決した。

13日の本会議では、2名の議員が一般質問に立ち、町政について議論した。



議場にて



慰霊碑建立

(老人福祉費)

238万円増額

後期高齢者医療給付負担金

158万円増額

介護保険特別会計繰出金

(児童福祉総務費)

339万円増額

子ども手当システム改

修委託料

●農林水産業費

(畜産振興費)

30万円増額

基金積立(家畜導入)

(農道整備費)

275万円増額

農免道路整備負担金

(農地費)

378万円減額

農業集落排水特別会計

繰出金

(商工費)

190万円増額

施設備品購入費

●土木費

(下水道費)

188万円減額

公共下水特別会計繰出金

(道路維持費)

1504万円増額

除雪委託料・消耗品費他

●消防費

(防災費)

112万円増額

無線受信機購入・修繕費

●災害復旧費

(農業用施設災害復旧費)

4656万円増額

測量設計委託料・災害

復旧工事請負費

(現年発生公共土木施

設災害復旧費)

1990万円増額

測量設計委託料・災害

復旧工事請負費

特別会計

▼国民健康保険特別会計

(事業勘定)

1235万円増加

共同事業拠出金他

▼介護保険特別会計

(保険勘定)

3461万円増額

介護保険サービス等諸

費



除雪状況

条例改正

▼後期高齢者特別会計

244万円増額

広域連合給付金

▼索道事業特別会計

57万円増額

索道管理費等

▼簡易水道事業特別会計

50万円増額

大河原水道災害復旧

▼農業集落排水事業特別

会計

532万円減額

事業費減額(杉谷分他)

▼公共下水事業特別会計

88万円減額

一般管理費内組替

▼江府町選挙公報発行に
関する条例の一部改正
改正は掲載文について、
文字だけではなく、イラ
スト・図等使用出来る様
改正された。

この条例は平成24年1
月1日から施行する。

▼江府町特別導入事業基
金条例の一部改正
子牛購入基金を、一頭
30万円とし、5頭分の基
金額1504万円に増額
する条例。

この条例は平成24年1
月1日から施行する。

▼江府町国民健康保険基
金条例の一部を改正
基金の処分について国
民健康保険事業に要する
財源が不足する場合には限
り、その全部又は一部を
処分する事が出来る。

この条例は、交付の日
から施行する。

▼江府町索道事業に関す
る条例の一部改正
リフト券の回数券12回
券・子ども料金半日券2
000円に改正

この条例は、交付の日
から施行する。

辺地に係る公
共施設の総合
計画の変更

▼公共施設の整備計画
平成23年から平成25年
までの3年間に農業集落
排水事業(杉谷)を計画
に組み入れる。



奥大山スキー場

一般質問 町政ここを問う

一般質問は2人の議員が行い、町長ならびに教育長の方針をただした



宇田川 潔

職員の能力向上策について

問 町職員の評価育成制度の導入は今年度中に試行する

して町職員の評価育成制度の導入が考えられます。自己評価し、改善する仕組み、専門性を活かし、戦略的な企画力を立てる能力を高める事を要望し、町長の考えを伺う。

質問 地方自治体を取り巻く環境は、財政難、集落間格差等の問題に直面しており、スピード感を持った対応が求められている。

次に町職員の洞察力、使命感、責任感、企画力など資質を高める手段として、年功序列の昇任人事にメスを入れ、抜本的な人事改革が必要と考えるが、登用試験の実施について考えてはどうか。真に実力のある人材を管理職に登用する体系を確立すべきと考えるが、町長の所見を伺う。

町長答弁

評価育成制度については、今年度中に試行したいと考えている。

評価制度については、

ただ単に点数をつけるのではなく、管理職員と一緒に話し合い、自分の仕事を振り返り改善点を見出し、新たな目標設定が出来るようするものであります。まちづくりにはよりよい職場環境が大切と考えますので、職場全体が一丸となって業務に取り組めるよう、職員同士のコミュニケーションに重点を置いて行う、人事評価制度の導入を図りたいと思います。

管理職の登用については旧態然とした年功序列人事は行っていない。

意欲のある人間を適材適所に登用している所である。登用試験については、他町の状況から現在のところ実施する考えはもっていない。



江府町役場内

課題を解消し、地域活性化を実現するには、官民一体となって戦略を練り、確実に実行していく事が重要と考える。そのためには、町職員の執務能力向上が必要と考える。町の職員には、自主的に町づくりに取り組む積極的な心意気と力量を求めたい。具体的な対策と

災害対策への取組みについて



雪崩防護柵



川上 富夫

問	答
災害復旧は	速やかに 復旧に努める

質問 昨年末の大雪による、奥大山スキー場雪崩事故から1年が経ちます。安全対策によりスキー場の縮小で大幅に売り上げが落ち込み、そして、追

い打ちをかけるように台風12号による大雨は、奥大山の道路の寸断など大きな被害をもたらしました。「大雪」「大雨」などの異常気象は、江府町の観光を一変させてしまいました。
スキー場の施設は雪崩防止柵を含めた安全対策を施し、奥大山の再起に

向け、全力で取り組まなければなりません。
奥大山周辺の災害については、素早い対応で復旧しましたが、安全対策を考慮した本復旧を望みます。
また、農地の用水路等至る所で受けた台風12号の被害は、甚大です。復旧復興について町長の所見を伺う。

町長答弁

昨年末の奥大山スキー場の雪崩事故により4名のパトロール員が犠牲になりました。事故後すぐ専門家にお願ひし、事故原因の調査を行って、本年度事業で安全対策事業を進めています。雪崩があつた所に、防護柵や、また、監視体制のため24時間観測できる監視カメラを設置し、現場スタッフに対応していきます。
グレンデ状況をホームページに公開し利用者のサービスに努めています。

また、この秋には「旨いもん祭り」や「ミニバーガーフェスタ」などイ



旨いもん祭り (エバーランド)

ベントを開催し、またスキーシーズンに向けて、県内5町村による共同企画キャンペーンを実施するなど観光誘致に取り組んでいます。

さて、9月の台風12号は町内各地に多くの爪痕を残しました。特に奥大山地域においては、道路の寸断など大災害となり、復旧はしましたが、本復旧に向けて県とも協議

をしています。

また「木谷沢溪谷」も大きな被害を受けました。自然に再生するのが理想ですが、環境に配慮した復旧を進めていきます。
農林業施設の災害は百

余件あり、全ての災害復旧の査定が終わり、工事発注に向け準備を進めています。

今後とも、復旧支援に取組んでいきます。

地方行政 調査報告

(平成23年10月24日～26日)

教育課程特例校

熊本市立富合小学校の取組み

熊本県熊本市富合町

調査の概要及び結果
教育課程特例校 熊本市立富合小学校の学校教育の取組みについて

目的

まちづくりの基本は、人づくりであり、少子高齢化の今日、次世代を担う学校教育は、将来社会の構成員として小学校6年間と中学校3年間を連続した義務教育の9年間ととらえ、平成16年内閣府構造改革特区「小中一貫教育」を開始し、連携型として積極的に取組んでいる先進地を調査し、江府町の学校教育・まちづくりに活かす。

概要

平成16年内閣府構造改革特区「小中一貫教育」の指定について熊本市立

富合小学校と熊本市立富合中学校の小中一貫教育は、小学校から中学校へのスムーズな移行が行われること。地域に一つしかない小学校・中学校の学力がつながっていくよう、カリキュラムで特色ある取組みをしている。

国際社会に対応出来る力を育てている。5年生から中学の教科書で英語の学習をしている。

主な取組み教育

1. 義務教育9年間を前期(小1～小4)中期(小5～中1)後期(中2～中3)ととらえ、小中両校の先生が同じ考え方で系統立てた教育課程を編成している。
2. 前期(小1～小4)TT(チームティーチング)少人数制、副担任制によりきめ細やかに、家庭とも連携を図っている。



研修状況

行政に頼らない「むら」おこし

柳谷集落について

鹿児島県鹿屋市串良町柳谷自治会

調査の概要及び結果

柳谷集落の自立のむらづくりについて

目的

少子高齢化の今日、地方主権を迎え各地域の自治体の自立自立でのまちづくりが行われています。「小さくても元気で明るいまちづくり」を進め今日、議会として積極的に住民の付託に「応え無ければならない。自立(律)のまちづくりに取り組んでいる先進地を調査しまちづくりに活かす。

概要

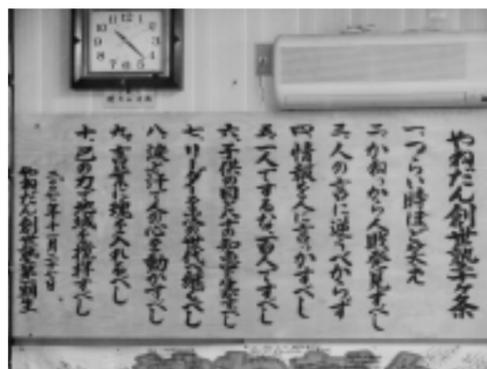
日本計画行政学会計画賞で最優秀賞に輝いた、柳谷自治会公民館長、豊重哲郎氏は、約130戸300人が共存する鹿屋市串良町の柳谷地域で、



研修状況

主な取組み

1. バイオマスリサイクル分野、土着菌製造販売し、畜産糞尿の悪臭の除去や肥料として役立っている。
2. 行政に補助金を頼らない地域おこしを、遊休地を借用して「からいも」の生産活動をし、高齢者の方々の積極的な参加で「やねだん」焼酎のブランド化を確立し、安定した自主財源を創り出している。



創世塾十ヶ条



研修委員一行

3. 中期(小5～中1)兼務教員の交流により継続的指導をしている。
4. 後期(中2～3)発展的な学習を図っている。
5. 英語でのコミュニケーションを図り、国際社会に対応出来る力を育てている。
6. 第三者による学校評価制度を行って、改善に努めている。
7. 平成11年から学社融合クラブ活動を実施している。
8. 保育園・幼稚園との連携を図り、スムーズな小学校への移行がなされている。

考察

益々進む少子化に対応し、先進地の事例を参考に、保育園・小学校・中学校がしっかりと連携をとり、家庭・学校・地域社会みんなが教育行政発展に取組まなければならない。

・保育園から英語に親しみ、学校教育を通して、国際的意識の高揚を図る。
・地域の方々から伝統文化の学び、郷土愛を育む。
・学社融合クラブ活動について検討する必要がある。

3. 集落総参加で運動公園を完成させ、活用している。
4. 子どもの教育は、地域ぐるみで取組み、「あいさつ」「見守り活動」「公民館の寺子屋」など、地域で支え合う活動をしている。
5. 空き家を利用し、県外から若手芸術家が住居し芸術文化のむらづくりを行っている。

考察

柳谷自治会の強いリーダー「豊重哲郎」氏の熱い情熱と、リーダーシップにより、地域住民の心をしっかりとつかみ、地

域再生に導いておられる。頼りがちな行政の補助金他力本願的になりがちを取組みを一人のリーダーを中心に集落の住民全員で盛り上げ、住みたいまち、暮らしてみたいまちになっている。
豊重氏の熱い語りかけは、日本はもとより、海外から視察、研修にこられる方々の大きな力となっている。

高齢化の進む江府町に於いても、地域再生のヒントをいただき「小さくても元気で輝きのあるまちづくり」に活かしていく必要がある。

総務経済常任委員会

調査日 平成23年11月21日

事務調査

行財政改革の進捗状況

平成22年度決算における実質公債費比率は21.2%となり昨年に比較し1.7%改善している。又、平成25年には実質公債費比率は19.0%と予想され、それ以降順調に改善される見通しである。

基金残高は約9億円が維持される見込みであり平成16年単独を決めた当初の推計から大きく改善した。

また、この推計には、今まで見込まなかった中学校の改築工事費約9億円が平成25年に組み込まれており、より現実的な推計となっている。

これは、町長・副町長・教育長の報酬カット、また一般職員の給与カット、そして議員の定数削減と報酬カットを継続してきたことや投資事業の抑制

物件費の削減など歳出削減に取り組んできた結果であると共に、歳入において、交付税が当初見込みより増えたことによるものである。

今、国の政策は大きな変動を迎え今後どうなるのか不透明であり、地方財政に及ぼす国の動向を十分把握し、今後の財政運営に当たられたい。

かねてからの懸案事項であった職員の人事評価制度は、細部の調整を除きおおむね形はできており、今年度中には試行に



大河原水源地

大河原水源地

平成23年9月3日台風12号による豪雨により大河原地区の簡易水道が被害をうけた。

現地の状況は、地下水をくみ上げる井戸は損傷をま脱がれたが、電柱は倒壊し配水池は上流からの土砂により損傷を受けた。翌日には応急措置として配水池を清掃しタンクローリーにて給水を行った。その後、電源、排水管等を設置し9月8日には仮復旧が完了した。

本復旧は今年度中に設計し平成24年に着工の予定である。

上流にて大山三の沢砂防工事が行われており日野川河川事務所とも協議し今後の復旧工事を進められたい。

入る計画である。議会としても大いに関心を持っており、制度が整い次第その内容について説明願いたい。



大山三の沢砂防工事

大山三の沢砂防工事

中国地方最大といわれる砂防工事が日野川河川事務所により行われている。この工事は、平成26年まで計4年の工事である。

9月3日の豪雨により大山三の沢の土砂が大量に流れたが、この工事が

完成することで、そのような土砂の流失を食い止めることになり、下流域の住民の安全に寄与することとなる。

環状道路の三の沢にできた橋の下流にも土砂をためる砂防堰堤が計画されており完成が待たれる。



サンエス造成地（御机）

**株サンエス
奥大山水工場**

奥大山水工場の隣に建設中の株サンエス奥大山水工場は来年7月の稼働をめざし計画ど通りに工事が進んでいる。江府町の新たな雇用の場として町民の期待に添えるようお願いしたい。

生産商品についてはB-1Bとガロンと聞いているが、奥大山水工場ヨーデルと協議し今後の製造計画等を進められたい。奥大山水工場ヨーデルの平成22年度の売り上げは約8300万円と前年を約700万円上回った。これは3月に起きた東北大震災の影響が大きい。

今年度の上半期は震災の影響もあり前年より240万円売り上げが伸びている。2Lのペットボトルのリピーターやガロンの契約者が増加しており今後も努力願いたい。又、株サンエスと今後よく協議し、お互いが発展するよう関係を築いて頂きたい。



エバーランド奥大山

エバーランド奥大山

平成23年9月3日の豪雨により、道路や橋の流失が発生し、一刻も早い復旧工事が望まれていた。幸い、県の担当課や関係業者の努力により10月20日には仮設の橋も完成し、懸案だった雪崩防護施設、気象観測システム、



雪崩防護施設工事

慰霊碑の設置は予定より早く工事が進んでいる。12月14日には慰霊碑の除幕式、また18日にはスキー場開きが予定されており着々と準備を進めら

れたい。今後、二度とあのような事故が起きないようにスキー場の安全管理体制を全員で確認しスキー場運営に当たられたい。

教育民生常任委員会

調査日 平成23年11月7日

江府小学校

●児童数の推移予測

平成23年度全体児童は136名。各学年共、20人以上で、5年生は10人と極めて少ない。平成27年度より更に減って、全体児童で104名。28年度からは、100名を下回る予測である。

●施設面では

駐車場は平成21年度に新設になり、学校行事にも安心して利用できる。プールは平成22年度に老朽化による濾過装置の取替え工事完了（工事費439万5千円）耐用年数は約10年間。運動場は平成23年度に観客席横の傾斜のコンクリート補修工事実施。

●通学状況

徒歩通学、バス通学ともに特に問題なし。

「考察」

来年度も学習支援員の配置を考慮されたい。徒歩、バス通学児童の安全指導に努められたい。近年の猛暑による児童の体調を考慮し、教室に空調設備を検討されたい。

子供の国保育園

●施設の状況

改修により雨漏りもなくなつた。遊戯室の壁と照明も新しくなつてよくなった。ベランダのひさし、プールのフェンス、保育室廊下等床のはがれや痛み部分が見られ、危険なので順次改修が必要である。特に器具の大半が30年から10年経過しているため、交換が望ましい。厨房については、特に交換が望ましい。門扉が重くて動かしにくい。

●保育内容等

異年齢保育、環境保育。テーマ保育、プロジェクト保育の実施。その他和太鼓、全園児の完全給食。今年度から中学校英語教師と景山指導主事の協力で、年長児は英語に触れる機会があり、楽しみにしている。園庭の芝生で園児が外で思い切り遊ぶようになった。

「考察」

十分とはいえない施設の中を最大限に利用し、工夫されて努力されている。0歳から3歳児の数が比較的多く、一時保育も未知数だが増えている。人的配置は考慮すべきである。

江府中学校

●施設面の状況

校舎は、築52年で老朽化が進み、雨漏りもあり補修で対応が出来ない状況。駐車場はスペースとしては十分。運動場は水はけが悪いが、整備しながら使用。

●通学状況

バス利用者46名、下校時、5時台のバス便がない。

●学習状況

小中一貫教育は、今後の方向性として望ましい。

「考察」

校舎の改築に向け、平成24年度には具体的に方向づけを検討されたい。

介護老人保健施設 あやめ

●入所者の状況

入所定員80名に対し、現在65名。待機者は少ない。岡山県に声掛けをし、真庭市から来られる人が増えつつある。

●施設面の状況

平成24年度は、介護報酬、介護保険料の改正がある。冬は施設入所、夏は家と、入所者にとって変動が大きい日野病院と連携をとり、黒字経営となっている。

「考察」

人材確保には苦慮されているが、町外にも声掛けをされ、地域に定着した施設として色々と努力されている。特に家庭復帰を目指す施設として、今後とも施設環境の充実に努力をお願いしたい。

千ロルの里特別養護老人ホーム

●施設の状況

定数50名。入所待機者数118名で非常に多い。江府町優先で対応はしている。県として、西部地区は特養ベッド数が少ない。

●職員の状況

江府町が約半分を占める（32名、48%）

「考察」

年間レクリエーション等計画され、また施設内外での研修会にも積極的に参加されている。今後とも全従業員の資質向上により一層の努力をしていいただきたい。



改築が待たれる江府中学校

議会改革調査特別委員会

第2回議会報告会

平成23年11月29日
江府町防災・情報センター

22年度決算について審査報告

第2回目の議会報告会を開催し、皆さんにわかりやすく説明し、ご意見を伺った。

一般会計報告書

総務経済常任委員長

森田 智

◎国の補助金6億2千万円があり、光ファイバー

網の整備が出来た。

◎昨年未からの大雪で除

◎公債費(借入金)が繰り上げ償還により昨年から約1億7千万円改善された。



雪費が4千2百万円と大幅に増えた。

◎昨年の7月から地デジの放送が始まったが、映像が乱れるなど苦情が出ている。

速やかに対応するように申し入れた。

特別会計

教育民生常任委員長

越峠 恵美子

◎国民健康保険の一人当たりの医療費は、約84万円かかっています。県下7番目の医療費が使われている。

監査委員報告

上原 二郎

財政推計を説明し、例月監査、平成22年度の会計執行状況が適正であったことを説明した。

日野病院組合・老健施設「あやめ」

川端 雄勇

◎平成22年度の決算と現在の日野病院の状況について説明し黒字決算で進んでいることが報告された。

◎「あやめ」の決算は黒字で進んでいる。

今後、広域での利用者の増員を図っていく必要があることも報告した。

日野町江府町日南町衛生施設組合

長岡 邦一

◎し尿処理施設「清化園」の施設の稼働状況について説明した。

◎可燃ゴミ焼却施設「くぬぎの森」についても、焼却炉の延命を図っていることを説明した。

西部広域行政組合

日野尾 優

◎広域消防・リサイクル施設・火葬場他、平成22年度決算状況について説明した。

町内所管事務調査

総務経済常任委員会

宇田川 潔

◎総務課・建設課・農林課・企画政策課・奥大山スキー場管理課等の状況について説明した。

教育民生

常任委員会

田中 幹啓

◎福祉保健課(あやめ・特老子口ルの里)教育委員会(保育園・小学校・中学校)の状況について説明した。

地方行政調査

川上 富夫

◎一貫教育の先進地と活性化している自治会の状況について説明した。

皆様からの声

◎議会報告会のあり方について、意見があったが、今回の報告会は、評価される声が多く聞かれた。
◎テーマを絞った企画をされたらどうか、提案があり、前向きに検討したい。

◎中学校のあり方、建設等について意見があり、委員会等で検討していく。

次回の議会報告会も「ひらかれた議会」として、皆さんの声をお聞きします。

議長行政報告

平成23年11月10日～11月28日



西部広域行政管理 組合議会定例会

日時 11月10日
 場所 米子市淀江支所
 管理組合議会委員15名、
 管理者10名、
 主な議案
 平成22年度鳥取県西部
 広域行政管理組合一般会
 計等の決算認定について
 原案のとおり承認した。

全国過疎地域 定期総会

日時 11月14日
 場所 東京港区「ニッシ
 ヨーホール」
 都道府県・市町村の代
 表等約700名が出席し、
 第42回定期総会開催され、
 溝口会長（島根県知事）
 の挨拶の後、各議案はい
 ずれも原案どおり決定し
 た。

国会議員との 要請会

日時 11月15日
 場所 東京「ホテル・ル
 ポール麹町」
 本県出身国会議員全員
 出席、県内町村議長17名
 議長会事務局4名。
 県町村議長会 西川会長
 （智頭町議長） 挨拶の後、
 意見交換した。

全国町村議会 議長会

日時 11月16日
 場所 東京NHKホール
 環太平洋経済連携協定
 (TPP) に反対等5件
 を特別決議した。

鳥取県後期高齢者 医療広域連合議会 定例会

日時 11月28日
 場所 湯梨浜町東郷支所
 平成22年度後期高齢者
 医療広域連合一般会計原
 案のとおり承認した。

陳情の審査結果

みなさんから提出のあった陳情を審査した結果、次のとおり決定しました。

件名	提出者	審議結果
2012年度国家予算編成において、教育予算拡充を求める陳情書	鳥取県教職員組合西部支部 支部長 内田 浩文 鳥取県高等学校教職員組合西部支部 支部長 森 悟	採 択
介護保険の充実を求める陳情書	自治労連鳥取県本部 執行委員長 植谷 和則	趣旨採択
「社会保障と税の一体改革成案」に反対する陳情	全日本年金者組合鳥取県本部西部支部 支部長 松本 正孝	趣旨採択
年金受給資格期間の10年への短縮を求める陳情	全日本年金者組合鳥取県本部西部支部 支部長 松本 正孝	採 択
島根原発1号機・2号機の定期点検後の再稼働見合わせと3号機の建設凍結を求める陳情書	反核・平和の火りレー鳥取県実行委員会 実行委員長 三村 清	趣旨採択
原子力から再生可能エネルギーへの段階的なエネルギー源の転換を求める陳情書	反核・平和の火りレー鳥取県実行委員会 実行委員長 三村 清	趣旨採択
TPP参加に向けた関係各国との協議を中止することの意見書を求める陳情	農民運動 鳥取県連合会 代表者 今本 潔	趣旨採択

政治倫理条例 関係の報告

受付日時
 平成24年1月18日付
 企業名
 (株)かわばた

議員と企業との関係
 代表取締役社長
 契約の内容
 災害関連工事8件

請負の方法
 指名競争入札

契約金額

総額39,080千円

特集

えいごであそぼう

江府町議会では（幼保・小中一貫教育）の研修を行ってきましたが、今年度から江府町でも小学校はもとより、保育園にえいごの時間が設けられています。この度、外国語指導助手のカイル先生との交流状況を教育委員会の景山指導主事から投稿いただきましたので紹介します。

子どもの国保育園の

英語活動

国際化が進む中、平成20年に示された『保育指針（保育の基本的な内容を定めたもの）』において、「外国人など、自分とは異なる文化を持った人に親しみ

を持つ」ということが示されました。江府町には外国語指導助手（中学校にられるカイル先生です）が配置されていることもあり、カイル先生に保育園に

来ていただき、園児と触れ合う機会を設けることにしました。

六月から始めたこの活動では、動物・形・色などを題材に、カイル先生と一緒に歌ったりダンスをしたり、簡単な工作をしたりして楽しく活動してきました。

園児達も、楽しみにしているようで、今ではカイル先生をみつけると、うれしそうに「ハロー。ハロー。」とあいさつをするようになりました。

十月は、ハロウィンを題材にした活動をしました。日本ではあまりなじみがありませんが、十月三十一日、仮装をした子ども達が「トリック オア トリート（お菓子をくれなきゃいたずらしちゃうぞ）」と言いながら近所を訪問し、お菓子をもらうというとても楽しい行事です。

園児達もほとんど知らなかったので、写真などを使ってカイル先

生に説明をしていただき、その後は、魔女やモンスターなどの仮面づくりをして楽しみました。

これらの活動は「遊び」が主体です。ですから、発音や文法といった英語教育のようなものをねらっているわけではありません。異文化にふれることを第一に、カイル先生と握手をしたり、一緒に歌ったりしながら楽しい活動になるようにしています。

この活動により、保育園（えいごであそぼう）、小学校（外国語活動）、そして中学校の「英語科」と保小中すべての子ども達が、カイル先生とふれあう機会ができました。国際人としてこれから生きる江府っ子の成長を支える活動のひとつとして、充実した活動にしていきたいと思えます。

江府町教育委員会

景山

I think the lessons at the kindergarten are very fun for the kids. It is useful to get used to English sounds early, when pronouncing English in an elementary or a junior high school later. I enjoy my visits every month. The kids are cute and very smart!
私は、保育園での活動は子ども達にとって、とても楽しいと思います。早い時期に英語の音に慣れるということは、後で小学校や中学校で英語を発音する際に役立ちます。私は毎月の保育園訪問を楽しんでいます。子ども達はかわいく、とても賢いですよ!



11月は葉っぱやドングリで顔を作りました

ひとこと



本三 稲田 三枝

「江尾に帰ろう」



「おばあちゃんのことを一番に考えよう」そう言ってくれた夫の言葉で「稲田整形外科」を二年前に閉院し江尾に帰ってきたのです。一人っ子の私にとつて子供の頃からいつかは親を「看取る」と言う意識は常に頭から離れません。結婚の際にもこの事を強く意識し、江尾での同居も十三年になったのです。当時母は若かったお陰で、やがて一人江尾に残して夫の開業のため四国へ行くことになりました。学ぶ事ばかりの二十数年があつたという間に過ぎていきました。

元氣だった母も段々と弱くなり、一人暮らしが少しずつ困難になっていきます。また私達も還暦を過ぎ老後の事などについて同世代の多くの人達と同じ悩みを持つようになっていきました。そんな時、夫が言ってくれた言葉に背中を押されて「江尾へ帰ろう」と決心がついたのです。地域医療に頑張っていた夫の決断に感謝の気持ちでいっぱいです。久しぶりの江尾は過疎化が進み、日々の生活も不便になっていきました。六十二才からの新しい生活の始まりと母の介護の同時進行は、思っていた以上に肉体的、精神的に疲れるものです。それでも多くの人達に親切にしていただけ、すぐに融け込むことができませんでした。なかでも同級生とは昔のようなお付き合いで元氣をもらっています。

人々の温かさと自然は以前と変りなく「晩になりました」「こんには」と挨拶をします。心温まりますね。四季折々に変化する里山や南大山の勇姿には改めて感動の日々です。

ただ長年暖かい所に住んでいたため寒く長い冬は辛いものです。やがて雪が消え春が来るのを私達はじつと待っています。どうぞ皆様よろしくお付き合い下さい。



武庫 大谷 英

「2度目の江府町民」

中学校卒業と同時に生まれ育った江府を離れ、人生の半分以上（今年32歳になります）を県外で過ごし、昨年の7月、16年ぶりに江府に戻ってきました。2度目の江府生活も早半年が経ちました。私の中では「まだ半年」という感覚です。人・言葉・景色：何がそう感じさせるのかわかりませんが、ここではゆっくりと時間が流れているように感じます。

以前は、四国でも1・2の都市、香川県高松市に住んでいました。どこへ行くにも、何をすることも便利な町でした。そこと比べると、江府は決して便利な町とは言えませんが。

次から次へと都市部への流出が続く中、私も江府に戻るか否か迷いました。多々葛藤を繰り返す中で、江府に戻る決心をしたわけですが、決心した一番の要因は「江府が好き」ということでした。16年のブランクがあり、まだまだ半人前の江府町民ですが、宜しく願います。

最後に、この場をお借りして私の家族を簡単に紹介させていただきます。1つ年上の妻（典子）と2歳8ヶ月になる長男（弥祿：みろく）の3人家族で、6月にもう一人家族が増える予定です。



▼2012年、復興元年の年が穏やかに明けました。町民の皆様は謹んで新春のお慶びを申し上げます。

▼昨年は一月の豪雪、三月の東日本大震災、九月の大台風と災害の多い年であり自然の驚異をまざまざと思い知らされた一年でありました。

▼今年は60年に一度の壬の辰年であります。龍にあやかり江府町が大いに飛躍することを期待いたします。

▼国政は震災復興、社会保障と税の一体改革、TPP、デフレ脱却等々、課題が山積しています。課題先送りの政治でなく、真に国民の為の国民の政治を強く望むものであります。

川端 雄勇

議会広報調査特別委員会

- 委員長 川上 富夫
- 副委員長 森田 智
- 委員 川端 雄勇
- 委員 田中 幹啓
- 委員 日野尾 優